

住民の思いを未来に

今泉地区まちづくり協議会発足

陸前高田市

地域主体の復興まちづくりを推進する「陸前高田・今泉地区明日へのまちづくり協議会」の設立総会は27日夜、市役所で開かれた。同地区では高台移転や土地のかさ上げ、道路整備が進められる中、伝統文化などを受け継いだ上での新たなコミ

ユニティ創出に向け、今後住民議論や提言活動を展開する。総会には地域住民や支援団体関係者ら約100人が出席。震災前からの町内在住者らによる発起人会を代表とし、吉田裕さん(上八日町)が「今すぐの問題も大事だが、まちづくりが進まない今泉は過疎化する。歴史と文化、安全と安心、子どもたちの未来がある今泉を取り戻したい。今泉住民の知恵と力を結集することが、一日でも早く今泉に戻る近道と考えた」とあいさつした。

引き続き役員選任、規約案、事業計画案を審議し、いずれも原案通り承認。会長に選出された今泉地区コミュニティ推進協議会の村上孝嘉会長(大通)は「長い目でまちづくりをしていきたいと考えており、若い方に柱になってもらわなければならぬ。多くの方々の意見を聞きながら進めたい」と述べた。

総会後は役員や住民有志らによる理事会が開催され、10月上旬に市に提出を予定している「陸前高田・今泉地区明日へのまちづくり基本構想」について議論。この中では、地域住民が参画すること

での「自立と自律の持続可能なまちづくり」を目指すとしている。大切にすべき視点として▽自然に学びながら働いて社会を良くするまち▽子どもからお年寄り、障がい者、社会的弱者にもやさしいまち▽多様な社会の課題を事業を通じて解決できるまち▽災害に強い、再生可能エネルギーを活かした循環型のまち▽今泉宿として歴史文化を活かした地域の魅力をたかめるまち

を掲げる。このうち「今泉宿」に関しては、周辺住民や観光客が集まり、若い世代にも魅力あるライフスタイルの具現化

を強調。「クランクする歴史的街区のパターンを街道として引き継ぎ、町屋をモデルとした住・商一体ゾーンを構想化している。

をつくる」「街道は許可車以外は歩行者専用道路として、地区の中心シンボルとする」などを構想化している。



会長に選出され、今後の活動に向けて協力を求める村上孝嘉氏(左)と陸前高田

まちづくりに関する提案活動などを行おうと組織化に至った。会員は、震災前に今泉で暮らしていた住民や地元内外の趣旨賛同者らで構成。全国の企業・団体で構成する一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワークや、昨年9月に発足したなつかしい未来創造(なつか)などが運営に協力する。事業計画によると、会員が集う総会は月1回のペースで開催。12月上旬には基本計画をまとめ、市に提案する考え。来年以降は実施計画策定に向けて検討を進める。

総会後は役員や住民有志らによる理事会が開催され、10月上旬に市に提出を予定している「陸前高田・今泉地区明日へのまちづくり基本構想」について議論。この中では、地域住民が参画すること

での「自立と自律の持続可能なまちづくり」を目指すとしている。大切にすべき視点として▽自然に学びながら働いて社会を良くするまち▽子どもからお年寄り、障がい者、社会的弱者にもやさしいまち▽多様な社会の課題を事業を通じて解決できるまち▽災害に強い、再生可能エネルギーを活かした循環型のまち▽今泉宿として歴史文化を活かした地域の魅力をたかめるまち